

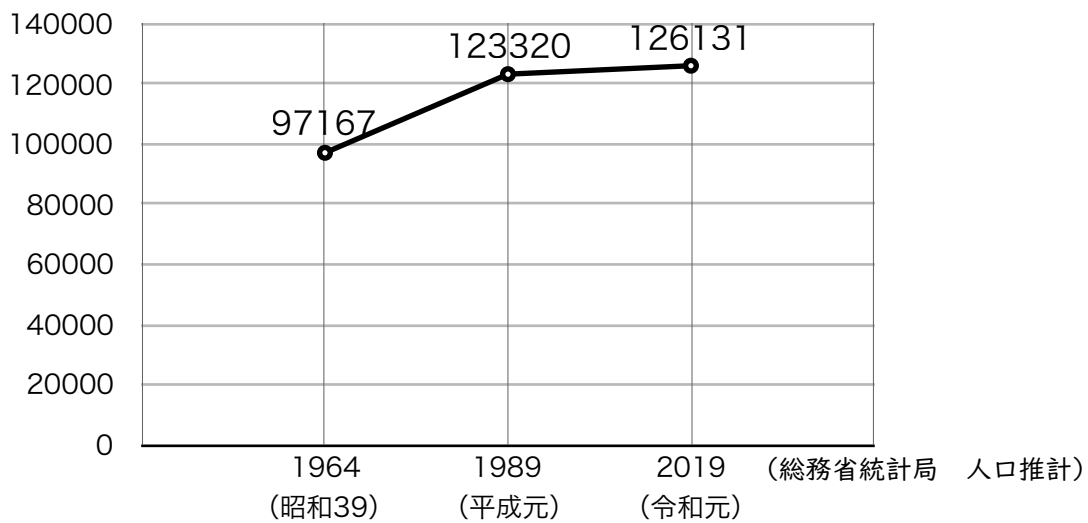
花子さんと太郎君は、校外学習のまとめをしています。

太郎：先日、テレビのニュース番組で、50年後の日本の人口の予測のグラフを見たんだ。日本の人口は、10年ぐらい前から少しずつ減っているみたいだよ。

花子：それまで、日本の人口はずっと増え続けていたのかな。50年前からの日本の人口の変化がわかる資料はないかしら。先生に相談してみましょう。

太郎君と花子さんは、先生に資料（図1）を見せてもらいました。

図1 日本の総人口の変化（単位：千人）

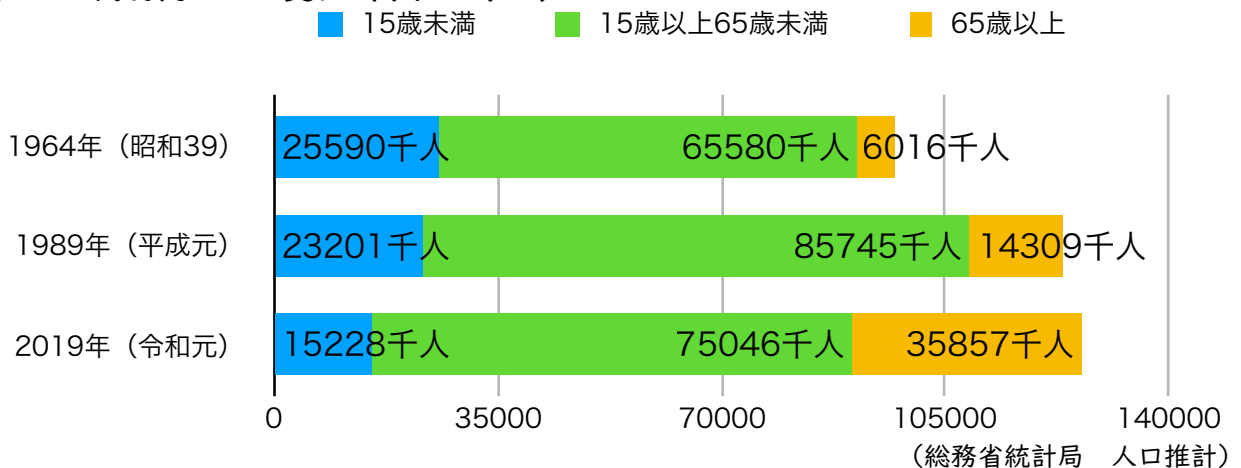


太郎：約50年前の日本の人口は1億人より少なかったのですね。

先生：人口について調べるときには、合計の人数だけではなく、世代別の分布を見ることも大切ですよ。

太郎：それなら、世代別に分けたグラフ（図2）を作成してみます。

図2 世代別総人口の変化（単位：千人）



〔問題1〕

1964年（昭和39）年、1989（平成元）年、2018年（平成30）年を比べたとき、日本の総人口の変化（図1）に対して世代別人口の割合がどのように変化したか、図2の15歳以上65歳未満（A）か65歳以上（B）のどちらかを選び、数値を上げてその特徴を説明しなさい。割合は百分率で表し、小数第1位を四捨五入して整数で表しなさい。

〔問題1〕

選んだもの

特徴

解答

〔問題1〕

15才以上65才未満(A)か、65才以上(B)のどちらかを選び、という条件ですが、当然、変化が大きく「高齢化」という語を持ち出せるBの方が特徴を説明しやすいでしょう。

Aは「生産年齢人口」を表す世代ですが、あまり小学生では使わない単語なので無理に考察せず、「働く世代」が1964年に比べ2009年が減少していることを指摘できればよいでしょう。

「97167千」とは97167000人のことですが、すべて「千人」単位で書かれているので、割合計算時には算用数字部分(97167)だけを使えばよいことになります。

〔問題1〕

○選んだもの **B**

○特徴

1964年のとき、日本の総人口97167千人に対し、65才以上のBの人口が6016千人より、

$6016 \div 97167 = 0.061 \dots$ より、Bの割合は6%である。

同様に、1989年のBの割合は $14376 \div 123320 = 0.116 \dots$ より12%、

2018年のBの割合は $28995 \div 126131 = 0.284 \dots$ より28%となる。

これより、1964年から1989年の25年間で、日本の65才以上の人口の割合は約2倍に、その後2019年までの30年間で、さらに約2.4倍に増え、高齢化が進んでいるといえる

Aを選んだ場合の解答例

「1964年のとき、日本の総人口97167千人に対し、15才以上65才未満のAの人口が65560千人より、

$65560 \div 97167 = 0.674 \dots$ より、Aの割合は67%である。

同様に、1989年のAの割合は $85744 \div 123320 = 0.695 \dots$ より70%、

2009年のAの割合は $75046 \div 126131 = 0.594 \dots$ より59%となる。

これより、1964年から1989年の25年間で、日本の15才以上65才未満の人口の割合は3%増えたが、その後2019年までの30年間で11%減少して1964年よりも働く世代の人口が低い割合になっているといえる」